

# 第4学年 国語科学習指導案

令和3年10月15日(金)3校時

4年生A16名(日本語学級対象児童5名)

授業者 下川 知紀

## 1 単元名

中心となる語や文を見つけて要約し，調べたことを書こう

教材名「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」

## 2 単元の目標

- ・ 事典の使い方を理解し使うことができる。

(〔知識及び技能〕(2)イ)

- ・ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。

(〔思考力・判断力・表現力〕B(1)ウ)

- ・ 目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約することができる。

(〔思考力・判断力・表現力〕C(1)ウ)

- ・ 幅広く読書に親しみ，読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。

(〔知識及び技能〕(3)オ)

## 3 単元の評価基準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 事典の使い方を理解し使っている。(2)イ</li><li>○ 幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。B(1)ウ)</li><li>○ 「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約している。C(1)ウ</li></ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 進んで中心となる語や文を見つけて要約したり，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりしようとし，学習の見通しをもって，調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。</li></ul>

## 4 指導に当たって

### (1) 教材観

本単元は、「世界にほこる和紙」は構成が捉えやすく、考えと理由の関係を明確にしながらか要約したり、百科事典などを活用したりして、伝統文化について調べたことを書く活動を行うという、複合単元である。

「世界にほこる和紙」は、構成が捉えやすく、考えと理由の関係を明確にし、中心となる語や文を見つけたりする学習に適している。既習単元である「要約すること」では、要約の方法を知ることがねらいとしているが、ここで行う本単元の要約の学習では、その力の定着を図ることがねらいとしている。また、ここで捉えた説明の仕方の工夫を、この後の「書くこと」の学習で生かすことによって、その効果に対する理解をより深めることである。

「伝統文化のよさを伝えよう」では、調べて分かったことをまとめて書く言語活動が設定されている。このことによって、説明のしかたを捉えながら読んだり、文章を要約したり、百科事典や取り上げる題材に関連する書籍を読んだりする必然性が生まれている。教科書では『博多おり』が掲載されている。単元の導入で伝統工芸への関心を広げていく際には、日本だけでなくフィリピンの伝統工芸品（バロンやニトバスケット）についても取り上げることによって、バイカルチュラルの視点をもたせていく。

### (2) 児童観

本学級では、毎日の授業でも自分の意見を積極的に発表したり、書いたりする姿を見ることができている。また、家庭学習にも意欲的に取り組んでいる。実態調査の結果でも96%の児童が国語を好きと答えている。理由は、「物語の登場人物の気持ちを考えるのが好き」や「友達とたくさん話することができる」など国語の授業に主体的に取り組んでいる児童が多いが、「文や漢字を書くのが苦手」という児童もいる。

今回の学習で取り扱う伝統工芸品について知っている児童は、約3割であった。今まで生活していた都道府県の伝統工芸品や全国的に有名な有田焼やこけしが挙げられていた。フィリピンにルーツをもっていたり、フィリピンでの生活が長かったりする児童の中には、バロンや貝がらを使ったフィリピンの伝統工芸品を書いている児童もいた。

既習単元の『要約するとき』の単元では、中心となる語や文を見つけることができずに自分の力で要約文を書くことや目的に応じて文章をまとめて書くことが苦手な児童が多い。また、理由や事例を表す接続語の理解については、ほとんどの児童が理解していた。あるテーマについて自分の考えの根拠となる理由や事例を書く問題では、理由の数が少なかったり事例との関連が図られていなかったりする児童が多かった。

フィリピンにルーツをもつ児童が約3割在籍している。それらの児童の中には家庭での言語環境が日本語ではないケースもある。そのため、基本的な日本語理解が不十分であったり、語彙力に課題がみられたりする児童も見られる。また、マニラ日本人学校では、ロックダウンのため昨年の5月から対面授業ではなくZOOMを活用したオンライン授業を行っている状態が続いている。(2021年9月現在)

### (3) 指導観

本単元「世界にほこる和紙」では、文章の組み立てを捉え、中心となる語や文を確かめて読み、要約することに重点をおく。各段落の要点をワークシートにまとめさせることによって、児童が要約文を書くための手立てとしていきたい。さらに、ブレイクアウトルームを活用し児童がお互

いのよさを見つけ、自分の表現に生かしていけるようにお互いの書いた文章を交流していく場も設定していく。第二次「伝統工芸のよさを伝えよう」では、調べたことをもとに、自分の考えをその理由や事例を挙げて、分かりやすく書くことに重点を置いていきたい。そこで、児童が多くの情報の整理をしやすいように、思考ツール（チャート図）を活用させていく。「博多おり」をモデル文としながら、自分が選んだ伝統工芸品のよさを文章に書かせていきたい。

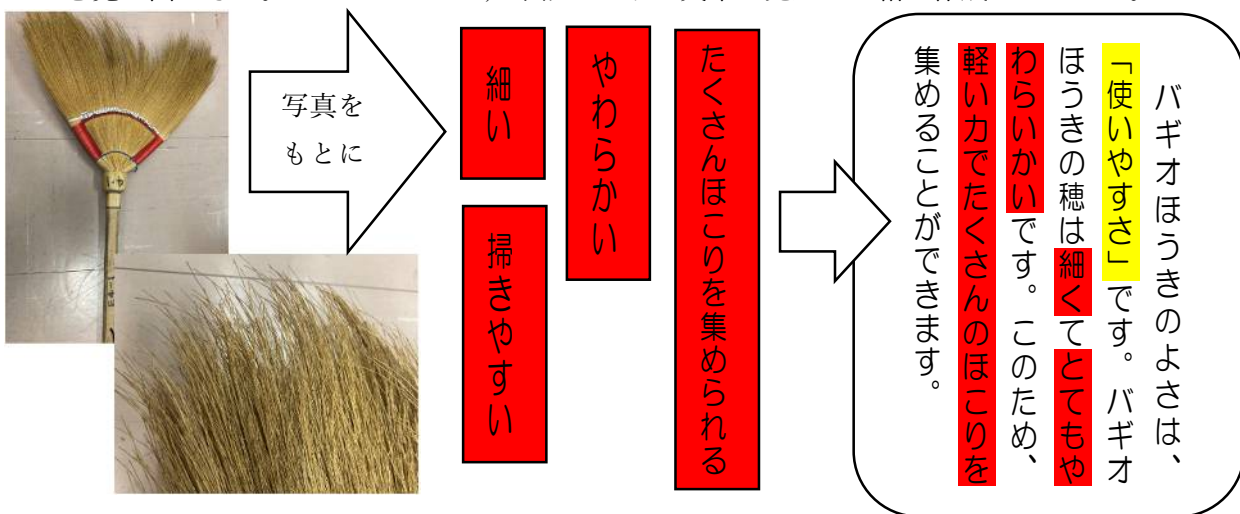
また、実態調査から約7割の児童が伝統工芸品を知らないことが分かったため、単元の前半から児童にインターネットや自分の家族へのインタビューを通して調べさせたり社会科と関連させたりしていきたい。

#### (4) 日本語支援について

日本語学級では、「世界にほこる和紙」について予備知識を得るため、先行学習を行う。本学級では、教材文の意味理解をするために、難解語句の意味を例文や写真を参考にしながら支援を行う。(理解支援)

**【取り上げる語句】**  
和紙・せんい・からませる・ほこり・とくちょう・おだやか・風合い

また、日本語学級在籍児童は文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。教科書のリーフレットの例文では難易度が高い。そのため、学校にも置いてあり児童の生活にも馴染み深い『バギオほうき』を例示して、書く活動の先行学習を行った。まず、『バギオほうき』のよさや特徴を児童に挙げてもらう。「掃きやすい」「ほこりがよくとれる」「軽くて使いやすい」などの意見が出てきた。それらをもとに、下記のような文章を児童と一緒に作成していった。



**【児童から出された意見】**

**【意見をもとに文章にまとめる】**

次に、要約を想起させるために要約の意味を説明したり、簡単な練習問題に取り組んだりした。(表現支援) 児童の実態から長い説明文を要約するのは困難である。練習問題では、短い文章を主語と述語の関係を明確にしながら、10字～20字程度にまとめる支援を行う。

**【練習1】**  
「水族館で人気のあるペンギンは、空は飛べないが鳥である。」  
↓ ※10字以内でまとめる  
「ペンギンは（主語）、鳥である。（述語）」（10字）

**【練習2】**  
「先週と比べ今週は平年より気温が高くムシムシした暑い日が続くでしょう。」  
↓ ※15字以内でまとめる  
「今週は暑い日が続くでしょう。」（14字）

また、本單元では、伝統工芸のよさとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しながらリーフレットを作成していく。そのため、日本語学級では、「理由や事例を表す接続語の意味や使い方を理解しているか。」【練習1・2】（理解支援）、「あるテーマについて自分の考えの根拠となる理由や事例を書くことができるのか。」【練習3】（表現支援）の2点について練習問題を通して支援を行う。

**【練習1】**  
わたしはケーキが好きです。( A ), あまくておいしいからです。  
[そして・例えば・なぜなら・しかし]

**【練習2】**  
ぼくはいろいろな料理を作ることができます。( B ), みそしるやたまごやきを作ることができます。  
[そして・例えば・なぜなら・しかし]

**【練習3】**  
「泳ぎに行くなら海がいいかプールがいいか？」1文目に自分の考えを2文目にその理由を書きましょう。(理由はいくつ書いてもいいです。3文以上になってもいいです。)

さらにバイカルチュラルの視点を意識させるために、フィリピンの伝統工芸品の写真をクイズ形式で提示を行った。日本語学級在籍児童は、フィリピンでの生活が長いため、これまで生活の中で多くのフィリピンの伝統工芸品に触れる機会がある。しかし、それらのよさや背景等を意識的に捉えることができていない。そのため写真を提示することによって、名前、産地、簡単な製法や歴史的な背景等を調べ、お互いに発表する活動を取り入れる支援を行う。

【参考資料】「学校教育におけるカリキュラム」を活用し、どのタイプの日本語支援を行うのか明確にして支援をする。

支援	支援の視点	支援タイプ
直接	日本語や学習内容の理解を促す支援	理解支援
	表現内容の構成や日本語での表現を促す支援	表現支援
	語彙や表現の記憶を促す支援	記憶支援
間接	自分で学習する力を高める支援	自立支援
	学習への動機付けなど、情意的側面での支援	情意支援

(「学校教育における JSL カリキュラム II 日本語支援の考え方とその方法」より)

## 5 単元の指導・評価計画 (総時数 16 時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 (○教科・◎日本語支援)	◆評価 (手段)【観点】	日本語学級での 支援 【理】【表】【記】 【自】【情】
一	1	①伝統工芸について 関心をもつ。  ②単元の学習のめあ	○◎実物や写真などを提示し、児童の既有知識を掘り起こしていく。 ◎難解語句について知り、ドライブに保存しておき、いつでも確認できるようにする。 ○リーフレットを作るという	【態】伝統工芸について関心を持ち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。 (観察・発言)	

		てを確認し学習計画を立てる。	単元のゴールを知らせ、学習の見通しをもたせる。			
二	2	③要約について既習内容を確認する。 「思いやりのデザイン」	○説明文の全体を捉えさせるとともに、要約について既習内容を振り返る。 ◎既習の説明文を提示して、要点をまとめるためのポイントを指導する。	【知】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (観察・発言)  【思C】文章を読んで内容と構成を捉えたうえで、まとまりごとに中心となる語や文を考えながら要約している。(記述)  【態】進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の本を読んだりしようとしている。(観察・記述)	【表】既習事項を振り返り、要約の意味や仕方を想起させる。  【理】教材文の意味理解をするために、難解語句の意味を例文や写真を参考にしながら支援を行う。  【理】短い文章を主語と述語の関係を明確にしながら、10字～20字程度にまとめる支援を行う。	
	3	④段落を確かめ、文章全体の構成を捉え、「初め」の段落ごとの要点をまとめる。	○段落を確認し、「初め」「中」「終わり」等の文章の構成を捉えさせる。また、要点をまとめるためのポイントを助言する。 ◎要点をなかなかまとめられない児童に対しては、段落ごとの重要な要点のポイントをしばって助言する。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>要点をまとめるためのポイント</b>            ☆中心となる文を見つけるために ↓            ①段落の初めや終わり ②接続後に続く内容            ③題名とつながりのある言葉 ④繰り返し出てくる言葉            ⑤文の主語と述語         </div>					
	4	⑤要約のための段落ごとの要点をまとめる。(中の一つ目)	○「中」には大きく二つの例が書かれていることを、言葉に注目して読み取らせる。			
	5	⑥要約のための段落ごとの要点をまとめる。(中の二つ目)				
	6	⑦要約のための「終わり」の段落ごとの要点をまとめ、中心となる語や文を考え、要約する。(200字程度)	○筆者が読み手に伝えたいこと(筆者の主張第10段落の要点)は何かを考えさせ、これまで段落の要点をもとに要約できるようにする。 ◎今までにまとめた要点をデータで確認できるようにする。			
	7	⑧要約した文章を読み合い、友達と交流する。	○友達と交流させることによって、自分や友達のよさを見つけられるようにする。			
	8	⑨「百科事典での調べ方」を読み、百科事典の使い方を知る。	○百科事典の使い方を指導するとともに、長い文章をどのようにまとめていくのかも考える時間を設定する。			【知】百科事典の使い方を理解し、使っている。(観察)
三	9	⑩伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。	○「伝統工芸のよさを伝えよう」を読み、学習の見通しをもたせる。	【知】読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(観察・発言)		
	10	⑪取り上げるものを決めて、本などで調べ、情報を集める。	○イメージマップを活用させることによって、理由と事例に分類させながら情報を集めていくようにする。			
	11	⑫集めた情報を整理	○チャート図を活用して、集		【思B】調べた	

	する。	めた情報を整理させる。 ◎よさの観点を示すことによって、集めた情報を整理しやすくする。 「使いやすさ」「美しさ」「じょうぶさ」「歴史・伝統」等	ことをもとに、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (記述)	
12 構	⑬整理した情報をもとに、よさを伝える文章の下書きをする。(よさの一つ目)	○チャート図をもとに、『つなぎ言葉』を活用しながら文章を書くように助言していく。	【態】進んで自分の考えをそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫して、調べて分かったこと等をまとめて書くとしている。 (観察・記述)	【理】理由や事例を表す接続語の意味や使い方を理解しているかについての支援を行う。 【表】身近なテーマについて自分の考えの根拠となる理由や事例を書くことについての支援を行う。
13	⑭組み立てを考え、下書きをする。(よさの二つ目)	◎伝統工芸品のよさとその理由や事例が示してあるモデル文を提示する。		
14	⑮「初め」「終わり」を考え、リーフレットを作る。	○「中」の内容をもとに書き方を工夫しながら、「初め」と「終わり」を書かせる。		
15	⑯レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。	○既習事項を想起させ、どういった写真を使えば効果的なのか考えさせる。		
16	⑰友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑱単元の学習を振り返る。	○感想を伝え合う観点をあらかじめ示し、目的をもって読ませる。 ◎お互いのリーフレットの読み合うポイントをいつでも見ることができるようドライブに保存しておく。	【態】友達のリーフレットを読み、積極的に感想を交流しようとしている。 (観察・記述)	

## 6 本時の学習 (12/16)

### (1) 本時の目標

自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして、書き方を工夫することができる。

(思考力・判断力・表現力] B(1)ウ)

### (2) 本時の展開

過程	学習活動・児童の姿	指導と支援 (○教科・◎日本語支援) 支援タイプ【理・表・記・自・情】 ◆評価(方法)【観点】
導入 7分	1 本時の学習課題を設定する。 2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">クラゲチャートをもとに、よさが伝わる文を書くにはどうしたらいいのだろうか。</div>	○ 前時で学習した学習内容を想起させたり、児童の書いたワークシートを示したりするとともに、学習計画をもとに本時の学習内容を確認させる。 ○ チャート図に整理した情報をどのように文章に表していくのかを児童に投げかけることによって、めあてへの焦点化を図る。

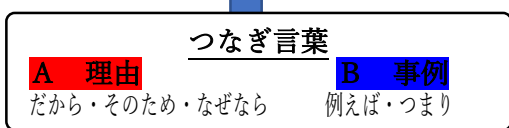
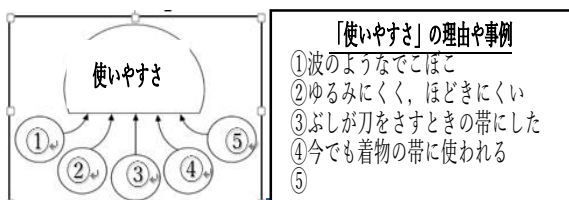
3 前時で整理した情報をもとに、説明する文章の「中」の下書きを書く。

① チャート図からどのように文章にまとめていくのかを教師の例文から知る。



チャート図に集めた情報を整理しただけ、これからどうやって文章にしていこう。

【チャート図】 【チャート図解説】



伝統工芸品のよさを伝える文章【例文】

その一つは、「使いやすさ」です。博多おりは、写真①のように、表面に波のようなでこぼこがあります。このつくりのために、結んだときにゆるみにくく、ほどきやすいのです。その使いやすさから、**例えば**、昔は、ぶしが刀をさすときに帯にしたそうです。今でも、着物の帯などによく買われています。

② 「よさ」を伝える文を書く。



なかなか書けない時は、モデル文②を参考にしながら、よさの「理由」「事例」を書いていこう。



「つなぎ言葉」を使って、チャート図にまとめた言葉から伝統工芸品のよさを書こう。

③ ブレイクアウトルームでお互いに書いた文章を交流する。

(4名×4グループ)

○ 児童が自力で文章を書けるようにするために、チャート図からどのようによさを伝える文章に変化していったのかを教師の例文で示す。

○ チャート図（解説）と例文を見比べながら、書き方の工夫で気付いたことを発表させる。

○ ただ文を書き並べているのか問うことで、つなぎ言葉に注目させる。

○ つなぎ言葉にも種類があることを確認し、自分の伝えたいことが「理由」なのか「事例」なのか、使い分けながら文章を書いていくように伝える。

○ 例文の文章の量が多いため、書き方がつかみにくいことが予想される。そこで、モデル文を提示し、基本的な書き方を確認する。

② 「Aから」

「理由」

だからです。目はなぜなら

頭

「Bから」

「理由+事例」

です。目は写真①のよう

頭

○ チャート図をもとに、『つなぎ言葉』を活用しながら文章を書くように助言していく。

○ 安心して書く活動に参加できるように、工芸品のよさと『つなぎ言葉』を使ったモデル文をいつでも見られるようにする。【表】

◆ 根拠となる理由や事例を明確にして伝統工芸品のよさを書くことができる。

(ワークシート・スプレッドシート)

【[思考力・判断力・表現力B] (1)ウ】

○ 『よさの理由や例が書かれているか』『つなぎ言葉が正しく使われているか』の視点をもとにお互いのよさを伝えたり、深められたりするようにする。

展開  
28  
分



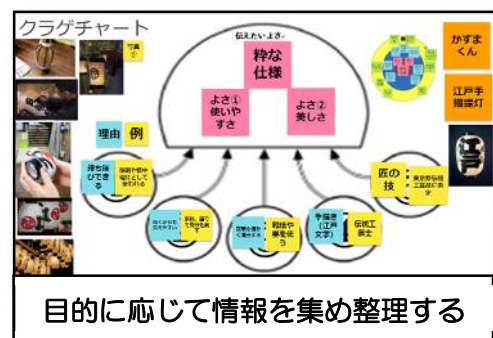
終末 10分	6 本時の学習についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           最初に「よさ」を、その後に関わりが分かるように理由や例を書いていく。         </div> 7 感想を発表する。	◎ フィリピンの伝統工芸品について書いた児童の作品を取り上げ、バイカルチュラルの視点をもたせたり、集めた情報をどのように説明するための文章にしていくのかを確認したりしていく。【理】 ・一文目と二文目のそれぞれの役割を考えさせる。 ○ 本時のめあてに沿った振り返りをするように助言する。また友達のよかった点や頑張りも発表させる。 ○ 次時の予告をする。
-----------	--	--

## 7 考察

### (1) 学習を終えて

今回の単元は、前半に説明文の要約に取り組み（習得）、後半にリーフレット作り（活用）を行う構成である。児童は前時までにチャート図を活用して、伝統工芸のよさを伝える文章を書くための材料を集めそれを本時で文章にしていく。

全体的な感想として、前時までに書くための材料を目的に応じて集め、整理していくことで普段なかなか文章を書くのが苦手な児童もモデル文を参考にして書くことができた。しかし、教科書の例文が児童の実態に合っておらず、戸惑う児童が多かった。児童の実態に応じた例文を出すことも必要だが、教科書の例文をどのように取り扱えばいいのか疑問が残った。また、



スライドを使って文章を書かせた。教師からは児童の書いた文章を全て把握することができる利点があるが、児童のタイピングの技能面に個人差があることが課題である。

### 【成果】

- 日本語学級で事前に難解語句の指導を行うことによって、支援対象児童が言葉の意味を理解しながら説明文を読み進めることができた。
- 教科書の例文から「つなぎ言葉」（接続詞）の使い方を指導することによって、理由や事例等を意識しながら書くことができた。また、伝えたいよさの理由や事例を関連付けながら書くことができた。
- モデル文を示すことによって、文章を書くのが苦手な児童もそれを参考にして主体的に書き進めることができた。

### 【課題】

- 教科書に提示されている文章が、支援対象児童にとっては非常に難しく負担が大きかった。児童の実態に合わせて、もう少し分かりやすい文章を提示すべきだった。
- いきなり文章を書かせるのではなく、前時までのチャート図の付箋に書かれた言葉を活用すべきだった。例えば、
  - ① モデル文の理由や事例の部分を含弧にして示す。
  - ② 前時までに整理したよさや理由、事例等の付箋を含弧の中に当てはめていく。
  - ③ それを見ながら文章を書く活動に入る。

そうすることによって、支援対象児童にとって負担感が小さくなったり、よさを伝える文の全



